

令和7年8月5日(火曜日)文部科学省

1

令和7年度夏季開催研修

「未来を創る技術教育」

4 学習評価のディスカッション

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官

文部科学省初等中等教育局教育課程課／情報教育振興室 教科調査官

(中学校技術・家庭技術分野／小中情報教育・プログラミング教育)

渡邊 茂一

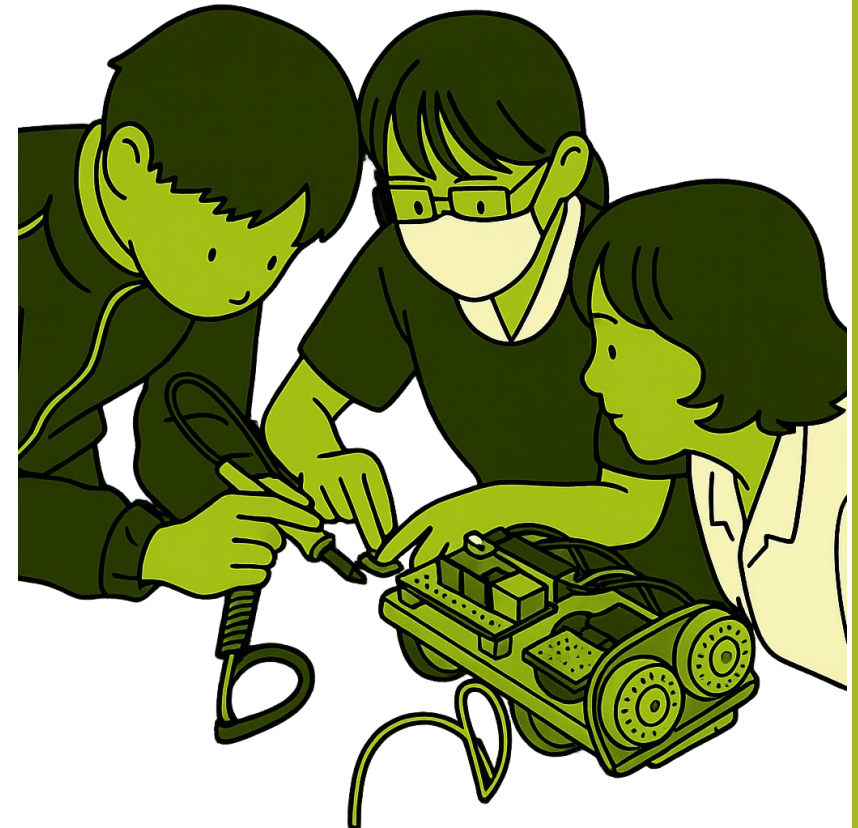
登壇者

● 旭川市立啓北中学校 教諭 天谷 亮太

● 桜川市立岩瀬西中学校 教諭 藤井 貴広

● 文部科学省GIGASuDX推進チーム
佐藤 伸

● 文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 渡邊 茂一



本研修の目的について

○ 学習評価とは

学校における教育活動に関し、**児童生徒の学習状況**を評価するもの
各教科等では、学習指導要領に定める**目標に準拠した評価**として実施

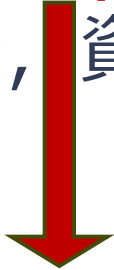
○ 観点別学習状況の評価とは

児童生徒の学習状況を、それぞれの**観点ごとに分析的に捉える評価**
どの部分に望ましい学習状況が認められ
どの部分に課題が認められるか
を**明らかにする**ことで、具体的な、学習や指導の改善に生かす
→**指導と評価の一体化**

※このことについては、現在議論されている次期学習指導要領でも変わるものではない

本研修の目的について

○ 学習指導要領総則の記載内容（総則第3 2(1)より抜粋

（前略）各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

※太文字、下線は筆者が追記

この「**評価の場面や方法の工夫**」を、現場の先生方の実践やディスカッションを通して、視聴されている皆様と一緒に学ぶのが本研修の目的となります

本研修の目的について

※太文字、下線は筆者が追記

○ このセッションではチャット機能を開放します

視聴者の皆様同士が情報を共有し、学びを深めることを目的として、
ただいまよりチャット機能の開放を行います。
ご利用にあたり、以下の点にご留意ください。

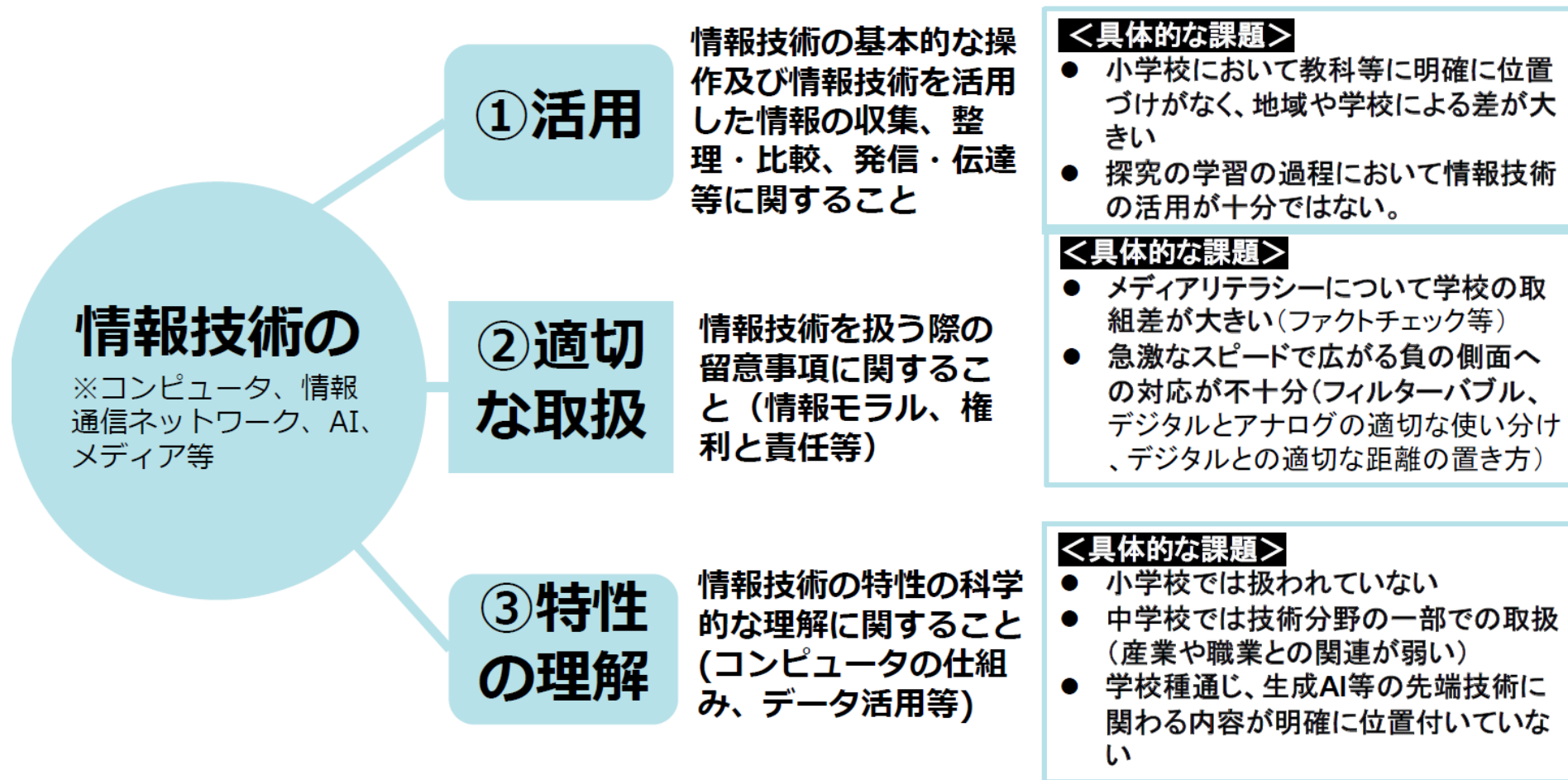
1. 敬意ある発言を心がけてください
2. 話題は本会の内容に関連するものに限定してください
3. 個人情報を書き込まないでください
4. 機密情報・非公開情報の投稿はご遠慮ください
5. チャットの内容は主催者が確認・管理しています

なお、**登壇者への質問は引き続きQ&A機能をご利用ください**

情報活用能力の抜本的向上に係る主な課題

補足イメージ①

小中高を通じた育成体系が不明確であることや、他国と比べ指導内容が不十分であること等、先の課題や具体的論点を踏まえれば、情報活用能力の抜本的向上に向けた内容面の充実の方向性については、**（１）どのように情報技術の活用の実態を高めていくか**（主に①活用）、**（２）内容として不足している部分の充実**（主に②適切な取扱い、③特性の理解）という方向で整理することが重要。



※ 指導体制の整備と併せて、技術の進展に伴い、教育内容が妥当性を失うことを防ぎ、教師の負担を可能な限り減らす仕組みを構築する必要

中学校・技術分野の論点

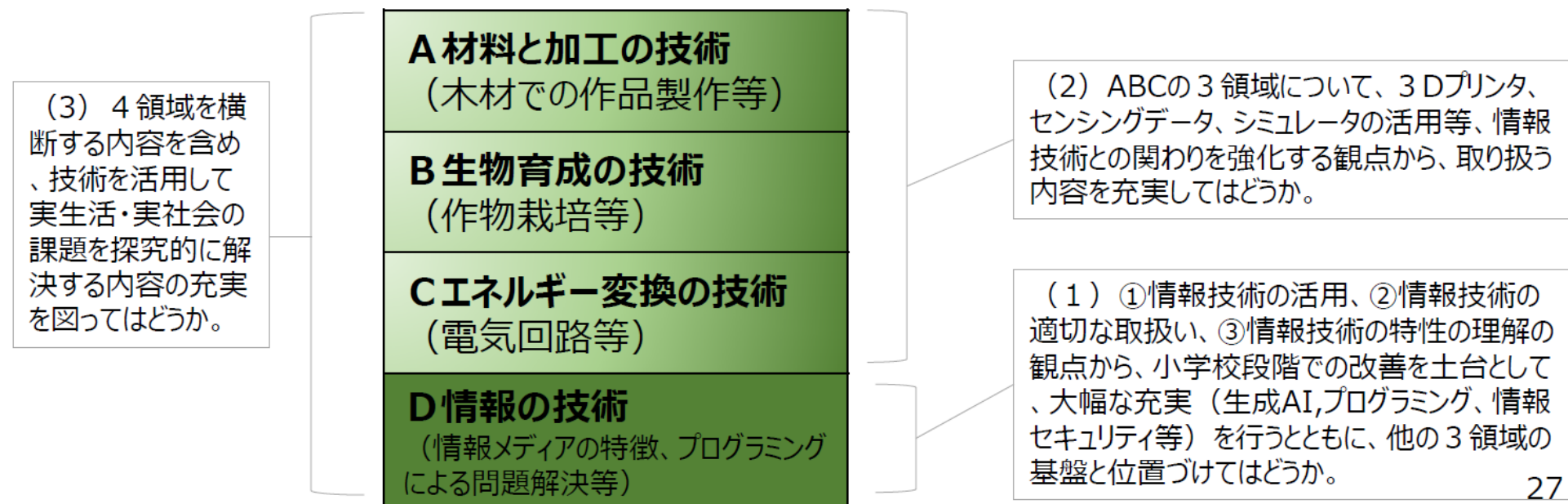
【技術分野の現状と課題】

- 現代のものづくりはデジタル技術の恩恵で大きく変化（産業現場ではデジタル技術の活用が急速に浸透）
- ノーコードや生成AIなどいわゆる「デジタル技術の民主化」で、一人ひとりの思いや願い、意志を具現化し得るチャンスが拡大。また、多くの子供たちが担う地域経済の生産性の向上の余地も大きい。

➡ こうした視点で現行の学習指導要領を見ると、下記の課題

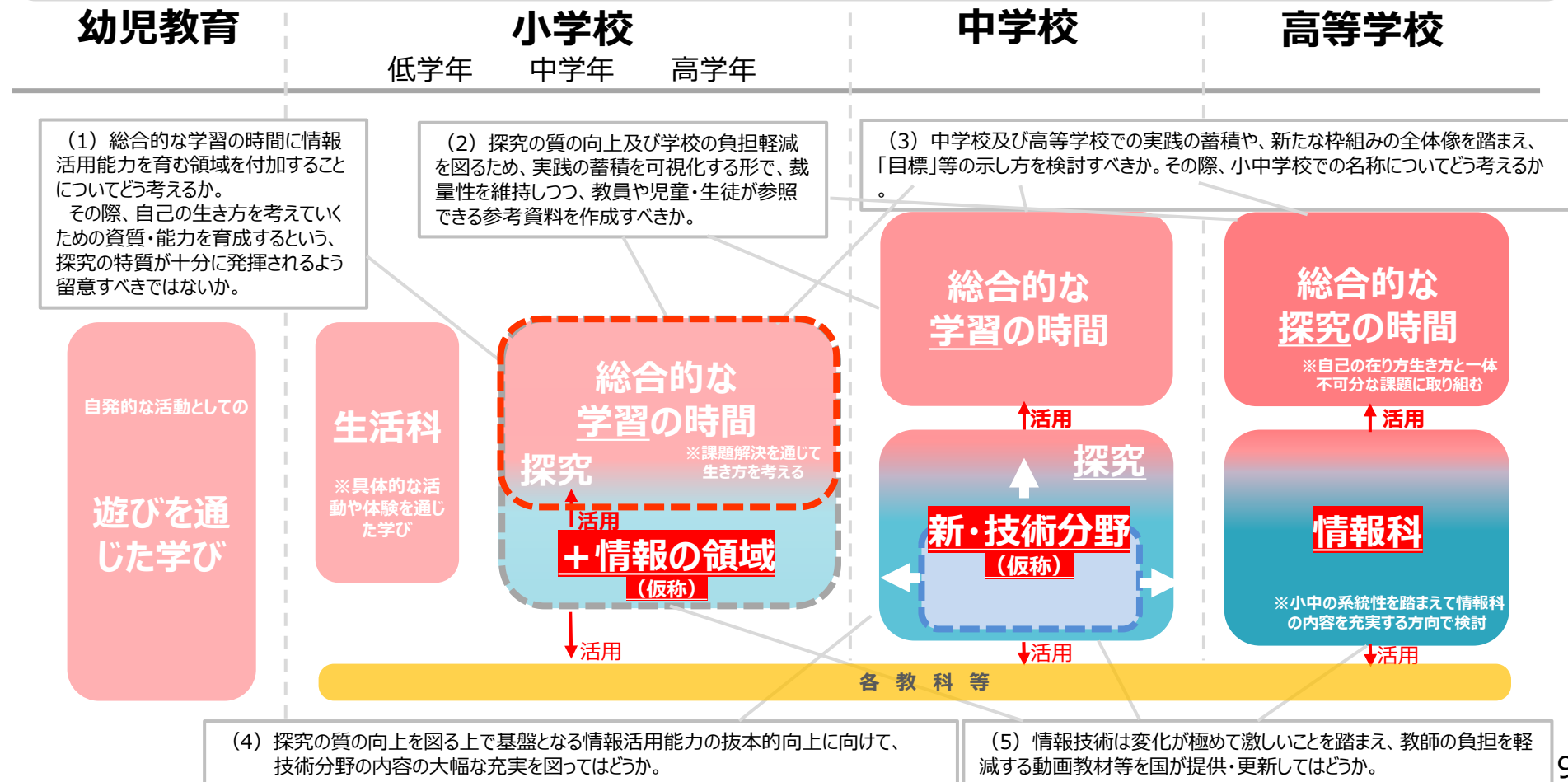
- (1) デジタル技術の学習が「D情報の技術」に閉じており、内容も諸外国と比べて見劣りする
- (2) 他の3領域（A材料と加工、B生物育成、Cエネルギー変換）でデジタル技術との関連が図られていない
- (3) 全体として、技術を活かして一人ひとりが実生活・実社会の課題解決を行う取組が不十分

これを踏まえ、以下の方向で改善を図ることとしてはどうか（詳しくは専門的なWGで検討）



質の高い探究的な学びの実現に向けた新たな枠組み (②全体イメージ)

- 主体的に学び、自らの人生を舵取りする力の育成や、多様で豊かな可能性を開花させる教育の実現を図るためには、一人ひとりが初発の思考や行動を起こしたり、好奇心を深掘りする中で、学びを主体的に調整し、自身の豊かな人生やより良い社会につなげていく「**質の高い探究的な学び**」の実現が不可欠
- この実現に向け、情報活用能力を各教科等のみならず、探究的な学びを支え、駆動させる基盤と位置づけ、**探究・情報の双方の観点から大幅な改善を図る**⁽¹⁾⁽⁴⁾とともに、**教育の質向上と教師の負担軽減を両立させる方策**⁽²⁾⁽³⁾⁽⁵⁾を検討してはどうか



文部科学省からの情報提供もご活用ください

次のサイトに様々な資料が掲載されています



10



中学校技術・家庭科
(技術分野) 事例集



技術分野
情報の技術特設サイト



StuDX Style
「各教科等における深い学びの実践」
家庭科、技術・家庭科